

旧入海と古墳群の関係

新原・奴山古墳群は、現在の宗像大社を構成する 3 つの神聖な場所を見下ろす高台に築かれました。起伏のある人工の丘の連なりが魅力的な光景です。これらの宗像氏の人々の主要な古墳は辺津宮から歩いて約一時間のところにあり、大島(中津宮)と沖ノ島(沖津宮)が位置する玄界灘に面しています。

沖ノ島と朝鮮半島との間の海路に面した古墳の位置は、宗像氏がこの地域に及ぼしてきた長年の影響力の視覚的な隠喩となっています。古墳群は現在数キロメートル内陸にありますが、かつては海の入江に接していました。何世紀にもわたり海は後退しており、元の海岸線の痕跡はほとんど見ることはできません。展望台では、数か国語による情報のほか、古墳全体が見渡せます。展望台は昭和学園前バス停から道を渡ったところにあります。